

卒論編

答えてくれた先輩たち

文・M TMさん

人環・M KYさん

人環・M IMさん(三)

人環・M KNさん

人環・M OYさん

人環・M TTさん

人環・M CTさん

人環・M SAさん

人環・D YKさん(三)

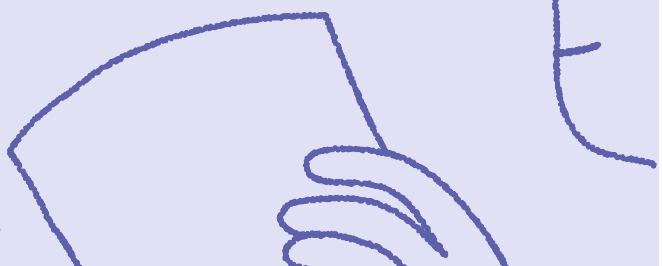
人環・D OSさん(三)

※文中は敬称略 ※M:修士課程、D:博士課程

※協力:「総人のミカタ」所属の方は(三)と表記

卒論・修論体験談

先輩たちは こうしました。



毎年好評いただいている先輩の卒論・修論体験談「先輩たちはこうしました」が今年も登場!どのように論文を執筆したか、当時のことを教えてもらいました。「卒論編」と「修論編」があります。ぜひ参考にしてみてください。

また「Library Newsletter」の七月号は「卒論・修論執筆応援号」となっています。前年度に修論を提出したばかりの先輩にロングインタビューを決定しましたので、そちらもぜひあわせてご覧ください!

先行研究探しのお手伝いや複写物・図書の取り寄せなど、図書館は執筆に取り組みあなたを全力でサポートします!お困りの際は調査・相談カウンターへどうぞお気軽にお尋ねください。

質問その1

卒論のテーマは?

TM:ソ連初期の作家ミハイル・ブルガーコフの長編小説『巨匠とマルガリータ』における月のモチーフの色彩について。

KY:鎌倉幕府の正月に行われる「詫飯」という儀礼の成立について論じました。

IM:二十世紀前半のドイツで、貧困や戦争、死をテーマに作品を制作した女性芸術家ケーテ・コルヴィッツの貧困の表象について。

KN:タイトルは「Charlots of Fire as a National Cinema」でした。一九八〇年代イギリスにおけるサッチャー政権の政策が、『炎のランナー』(一九八一年、ヒュー・ハドソン監督)という作品の映画スタイルにどのように影響を及ぼしたのかについて研究しました。

OY:ドイツの哲学者ハイデガーの「身体」に関する思索。

TT:清末期日清外交の性格―袁世凱罷免事件を中心に―

CT:スウェーデン語の動詞övertala(英語persuadeに相当)の語義を研究しました。övertala NP att VP の中に用い、NP によるように説得する」という意味を持ちます。

SA:トーマス・マンの教養理念。

YK:混合アニオン化合物の作製と価電子帯制御による機能発現。

OS:一九六一年ベルリン危機を題材にした、ケネディ政権の外交政策の「現実主義」性の検討。

質問その2

テーマはどのように決めましたか？
かかった時間はどのくらいでしたか？

OS: 法学部のゼミで読んでいた『危機の年』が面白かったこと。わりとすんなり決まった。

KY: ぼんやりと武家儀礼についてやりたいたいという思いはあり、参考文献を集めて読んでいくうちに「これにはまだ問題点が多くありそうだ」と思って決定しました。3回生の秋ごろからテーマについて悩み始めて、決定したのは4回生の春頃です。

TT: 最も関心あるテーマに史料から新たな要素を見つけて付け加えました。ずっと関心を持っていたので、わりと時間はかかりませんでした。

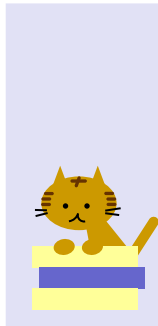
TM: 対象にする作品は4回生の5月に、詳細なテーマは6月末くらいに決めました。対象作品は半年以上もの間ずっと読み返しても嫌にならない、自分が楽しめるものを選びました。日本語の先行研究・文献が多くあったことも要因の一つです。テーマは、自分の得意な、作品内の細部に着目する手法を生かせる題材を選びました。

質問その5

最初に何から始めましたか？

KY: 先生・先輩に相談して、興味に近そうな参考文献を紹介してもらったことから始めました。

OY: 指導教官との面談を踏まえた上で、一次文献の読解から始めました。また、同時に自分の興味のあるテーマに関連する文献情報を集めました。



CT: とにかくデータが必要だったので、コーパスを用いた言語データの採取から始めました。

SA: まず原典を読むことから始めました。自分の意見がある程度持ったうえで先行研究に当たったほうが、注目すべきところがわかってメリハリのある読み方ができると思います。

質問その6

論文作成で気を配ったところはどこでしたか？

KY: 根拠となる史料を強引に解釈して捻じ曲げないように特に気を配りました。

IM: 先行研究を正しく「誤読がないように」理解すること、論に飛躍がないようにすること。

KN: 先行研究を読み進め、分析を進めていくと、はじめに作成した構成から大幅に逸れたり、気になることが次々と現れて深みに嵌ると聞いていました。それを避けるために、常にメタ的な視点で自分をチェックしていました。

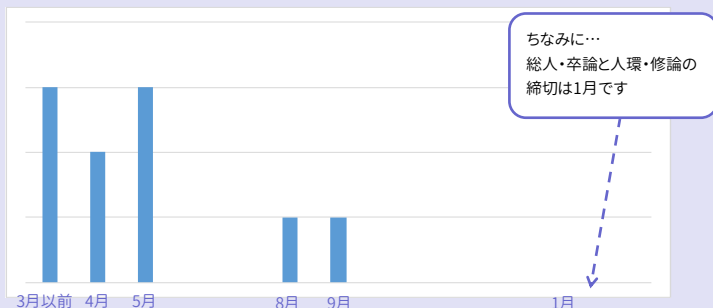
TT: 専門的な知識や用語を専門外の人にも伝わるような文章を作成することを心がけました。

SA: 誤字脱字、引用の仕方や註の付け方など、形式的なところでミスがないようにしました。

OS: 各章の論理構成がおかしくないようにすること、論文全体での章立て。

質問その3

いつ頃から準備を
始めましたか？



質問その4

構成から完成まで、
論文執筆にかかった
期間は？

KN: おおよその章分けを作成したのは4月の半ば頃です。先行研究を批判的に検討し、映像テキストを分析するたびに構成を微修正しました。英語で執筆したので、提出締切ギリギリまで推敲をかさねました。

CT: 構成は11月に大体できていました。指導教員や同期のメンバーに添削してもらいながら、1月中頃に完成しました。

質問その7
苦労したところは？それをどう
乗り越えましたか？

質問その8
執筆の間、一番助けになったこ
とはなんですか？

OY: 自分では、十分に説明したつもりでも、他の人にとってはわかりづらかったり、説明不足で議論の流れがわかりづらくなったりしている点を修正する過程が大変でした。その際には、研究室の先輩に添削やアドバイスをもらって、修正していきました。

TT: 何度も論文を読んでいるうちに、その論文は他者にとって理解しやすいかがわからなくなりました。できる限り多くの人に読ませました。

YK: 文献収集に苦労しました。実験系科学の場合も引用は重要ですが、膨大な数の学術論文に目を通し、そこから自分の卒論・修論に必要な論文だけをピックアップするのが、非常に骨の折れる作業でした。

TM: 研究対象が魅力的だったこと。

CT: Padです。Padに文書を入れることで文献の閲覧が大幅に楽になったからです。

SA: 同じく卒論に取り組んでいる友人と、お互いに考えていることを話すようにしていました。頭のなかを整理されたり、思ってもみない質問が飛んできたりして勉強になりました。

YK: 周りのいろんな方々が気にかけてくれるのが非常に助かりました。執筆中は確かに集中して書かないといけません。息抜きも兼ねて誰かと話をするのは重要だと思いました。

OS: 書いている最中でも適当に気晴らしに飲みに行ける友人が多かったのはよかったです。

質問その9

文献管理はどのようにしていましたか？

YK: Mendeleyという文献管理ソフトウェアを使用していました。

KY: Wordで参考文献リストを作成していました。

CT: パソコンのローカルフォルダに保管し、Google driveと同期させていました。

IM: 特別気をつけていたわけではありませんが、利用した本の書誌情報は手元に残すようにしていました。

KN: 短い論文は印刷し、長いものは要約を作成して自分にだけ理解できる順番で部屋に広げて並べていました。

TT: 紙媒体だけでなく、USB、ワンドライブも使用しました。



RefWorks や EndNote Basic といったWeb上で使える文献管理ツールもあります！詳しくは調査・相談カウンターへどうぞ。

質問その10

研究の醍醐味は何だと思えますか？

TM: 世界の奥行の深さと、現時点での自分の限界を知ることができること。先人が積み重ねたものにアクセスし、その積み重ねに(末端であっても)参加できること。

IM: 難しい質問ですね。自分の考えを形にするとか、先人の知に触れるとか、いろいろ言えそうです。このような難しく、明確な答えがあるのかどうかさえ疑わしい問いについて考えることも、醍醐味の一つかもしれません。

KN: 自分が好きで興味のあることをトコトン追求できることだと思います。論文にしていくなかに、今まで混沌を極めていた頭の中の情報の海が整理されていくのは見ていて気持ちの良いものです。

SA: 自分にとって大切な問題を、納得のゆくまで突き詰めて考えることだと思います。

質問その11

「これだけは言っておきたい」アドバイスをお願いします

TM: 論文データのバックアップは必ずインターネットのドライブにも保存しておきましょう。

OY: 皆が言うことですが、何事も早めに、そして計画的に進めるのが一番です。その方が、卒業論文の質はより高まります。

YK: 論文をまとめることは大変な仕事ですが、自分だけのユニークな研究を後世に残すことができるいい機会だと思えます。ぜひ誠心誠意取り組んで、自信をもって他者に伝えることができるものに仕上げてください。

OS: わからないことがあれば必ず信頼できる人間にすぐ相談すること。指導教官である必要は必ずしもない。あと、酒に逃げすぎないように。